

今治圏域で唯一200床以上を備え、地域住民の安全・安心を支える県立今治病院

老朽化などを受けて県と今治市が覚書を交わし、移転新築へと大きく前進

丹下健三のレガシーを礎に、「顕彰」から「創生」のステージへ
「瀬戸内の世界都市」を目指す新たなまちづくりの挑戦が幕開け

今治市では今年3月に発生した大規模な林野火災を受けて、被災者の声に耳を傾けながら、生活・事業再建のためのきめ細やかな支援を継続しつつ、被災した林野の復旧・復興に向けた取り組みが始まっている。また、10年以上前から県に要望を続けてきた老朽化した県立今治病院の移転新築については、県が6月議会に関連費用を予算計上し、大きく前進することになった。

さらに、愛媛大学工学部に「海事産業特別コース」の創設が決まり、日本最大の海事都市である今治市にサテライトの整備が進んでいるほか、今年6月には中心市街地の新たなまちづくりに向けた具体的な指針となる「中心市街地グランドデザイン」が策定され、8月から9月にかけては、丹下健三顕彰事業が展開された。今号では、今治市の徳永繁樹市長に登場いただき、こうした一連の取り組みについて語ってもらった。

大規模林野火災からの復旧・復興及び生活支援に加え、教訓を生かした未来志向の取り組みを

—— 今治市長沢付近から出火した先の林野火災被害の概要、鎮火に向けての今治市の消火活動等の対応、被災者支援などをお願いします。また、延べ7,000人近い消防隊員などが命がけで消火に当たったほか、全国各地からの

災害義援金などの善意も寄せられました。さらに、県は火災を受けて、県林野火災アラートを新設しました。今治市も林野火災復旧・復興計画策定検討会を立ち上げられました。火災を受けて取り組みを始めたこと、今後の計画の方向

性などをお願いします。

徳永 今年3月23日に今治市長沢地区で発生し、隣接する西条市にまで延焼した林野火災は、焼損面積481.6ha、負傷者4名、建物被害27棟にのぼり、愛媛県内において平成以降最大規模の被害となりました。幸い、尊い人命が失われることはありませんでしたが、大切なご自宅や財産に大きな被害を受けられた皆様、また、消



火活動において負傷された消防団の方々に、改めて心よりお見舞いを申し上げます。

火災発生当初から、本市は愛媛県や自衛隊、各消防機関と緊密に連携し、延べ約7,000人の消防関係者による懸命な消火活動を展開いたしました。3月27日の待望の雨により延焼の拡大を抑えることができ、29日には延焼阻止を

発表。その後も、現場では地道な残火処理や煙・熱源の確認作業を続け、3月31日には火勢を鎮圧しました。そして、火災発生から23日目となる4月14日に、ようやく鎮火に至りました。強風や險しい地形という極めて厳しい条件下で、使命感を胸に命がけで任務にあたられた全ての関係者の皆様

に、深く敬意と感謝を表します。

また、全国各地から多くの温かいご支援・ご寄付をいただきました。支援物資のご提供に加え、災害義援金、支援金は合わせて1億9,000万円を超える額に達しており、あらためて厚く御礼を申し上げます。

本市では、鎮圧後すぐに被災者支援チームを立ち上げ、被災世帯の支援ニーズ把握に努めました。

「瀬戸内の世界都市」を目指す

徳永 繁樹 今治市長

地域と海と未来をつなぐ

 **今治造船株式會社**

私自身も、被災された方々を個別に訪問し、直接皆様の声に耳を傾けました。要望の多かった焼失建物の解体・撤去、火災ごみの処分費用の支援、さらには生活・事業再建資金融資に対する利子補助など、お聴きした内容をきめ細やかな支援策へとつなげてまいりました。こうした支援策には、頂戴した義援金や支援金を活用させていただいております。



また、本市でも、各地域で自治会長や総代、消防団を中心に「火災警戒リーダー」を選任し、アラート発令時には、野焼きやたき火などへの注意喚起を行う新たな仕組みを構築しています。「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を育てる住民参加型のネットワークであり、地域防災力の強化につながる効果を期待しています。加えて、火災対応の検証から見

一方で、今回の火災を契機に、国や県でも新たな制度づくりが進められています。消防庁からは、林野火災予防の実効性を高めるため、「林野火災注意報」の新設を含めた条例改正が通知されています。これに先駆けて、愛媛県では5月21日から「林野火災アラート」の運用を開始し、林野火災の危険が高まった場合、防災行政無線などを通じて市民の皆様にも、素早く周知できる体制が整えられました。

林野火災の消火活動に駆け付けてくれた消防隊の皆様へ感謝

“地域社会のワクワクする未来を共創”



四国通建株式会社

本社／愛媛県今治市南大門町1丁目1-15 支店／松山・高松・徳島・高知
営業所／新居浜・西条・宇和島
電話 代表(0898)32-5555 URL <https://www.stk.co.jp/>

くらしをつくる。



大一ガス

愛媛県松山市萱町1丁目3-12 TEL:089-941-7938



©デブ猫ちゃん

えてきた課題として、初動体制や指揮系統の整備、広域連携の強化などにしっかりと向き合い、改善を図ることで、今回の教訓を生かしてまいります。

さらに、被災した林野の復旧・復興に向けては、国・県・市及び地元関係者で構成する「復旧・復興計画策定検討会」を設置し、自然災害に強い森づくりや、地域の

県立今治病院の移転新築に向けては、市長と今治市医師会長が中村知事に強く要望

―― 県立今治病院が今治地域の医療機関として、住民の健康と命を守ってきた役割・機能、建替えを要するようになった背景や施設の現状、今治市医師会会長等と移転新設を県に求めてきたこれまでの市の対応をお願いします。

徳永 愛媛県立今治病院は、今治圏域で唯一200床以上の病床を備えた中核医療機関として、長年にわたり地域住民の健康と命を守り続けてきています。救急医療や急性期医療をはじめ、災害医

子どもたちと進める植樹活動など、未来志向で再生に向けた取組みをスタートさせました。来春には、愛媛県で全国植樹祭が開催されるのに合わせ、被災地での植樹イベントを予定しております。市民の皆様にもお手伝いをいただきながら、緑豊かな山を再生し、多くの人に親しまれる「憩いの森」づくりに取り組んでまいります。

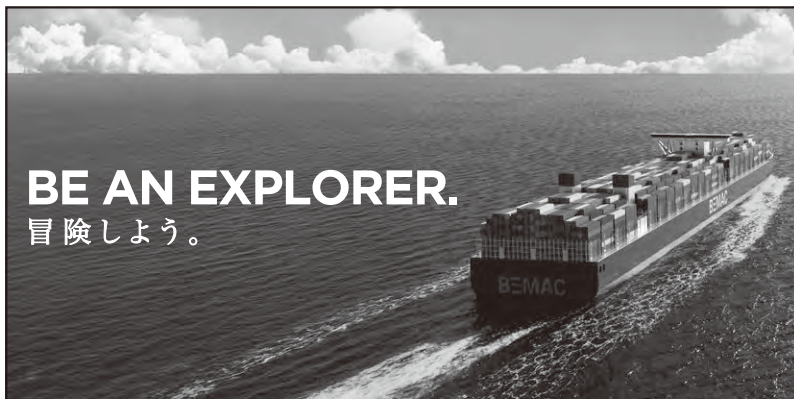
療、小児・周産期医療、さらにはへき地医療に至るまで、地域にあって不可欠な政策的医療を幅広く担っていただいております、その機能は他の医療機関では代替が困難です。

特に救急医療においては、二次救急の輪番病院として、他院では対応が難しい重症患者や高度な処置を要する症例を受け入れ、地域全体の医療体制を支えるバックアップ機能を果たしてくれており、脳梗塞や急性心筋梗塞、外科的処

置が必要な救急患者に対しても、t・PAホットライン、ACSネットワーク、腹部救急ネットワークを通じて迅速な治療を提供し、救命率の向上に大きく貢献しています。さらに、地域周産期母子医療センターや災害拠点病院としての役割も担っていただくなど、地域住民の安心・安全な暮らしを支える社会基盤としてなくてはならない存在です。

しかしながら、現在の病院施設は本館が築後40年以上を経過し、老朽化や狭あい化が進行しています。患者の快適性を確保するアメニティ機能の低下に加え、医療の高度化に対応するための設備やスペースが不足し、診療機能の維持・向上に限界が生じつつあります。こうした状況は、医療従事者の働きやすさや安全性にも影響を及ぼし、施設の更新は喫緊の課題となっています。

本市では、こうした状況を重く受け止め、2014年以降、愛媛県に対して毎年のように県立今治病院の早期建替えを要望してまい



BEMAC 株式会社

今治本社・みらい工場

愛媛県今治市野間甲 105 番地

Tel : 0898-25-8282

www.bemac-jp.com



会長とともに中村知事を訪問し、市が所有する「しまなみの杜1・2」を移転候補地として正式に提案するとともに、改めて早期の移転新築を強く要望しました。この候補地は、広域からのアクセスに優れ、災害リスクの低さや将来的な医療機能の拡張の余地など、多くの利点を備えています。

この提案は、県が主催する「県立今治病院老朽化対策基本計画策定委員会」においても高く評価され、当該市有地を候補地として早期整備を目指す方針が正式に決定されました。

市として、新病院のアクセス整備や関連施設の誘致、不足する看護人材の確保などに全力で取り組む

—— 市の要望どおり整備方針が決定されましたが、県は2025年度当初

徳永 県は2025年度6月補正予算において、県立今治病院の移転新築に向けた事業者募集・選定のための費用865万円を計上するとともに、整備事業費として218億3,572万円を債務負担行為限度額として設定しました。

全国的に公立病院の経営環境が厳しさを増し、建設費の高騰も重なる中で、移転新築の決断を下された中村知事をはじめ、愛媛県当局の皆様に対し、市民を代表し

りました。

そうした中、2022年に中村時広知事が4期目の公約として、「老朽化が課題となる県立今治病院のあり方について、本格的な検討を進める」との項目を盛り込んでいただき、検討に着手していただくことが叶いました。さらに、2023年2月には、今治市医師

予算への県立今治病院の整備に関する費用の計上を一時見送りしました。先般、計画を一部変更したうえで、関連予算を6月補正予算に計上しましたが、県が今治市に示した変更後の計画の内容は、また、移転新築によって医療機能が拡充することへの期待などをお願いす

一般社団法人 今治市医師会

会長 木本 眞

事務局:〒794-0026 愛媛県今治市別宮町7丁目1番40号

て心より感謝を申し上げます。

今治圏域の医療提供体制は、医師の高齢化、施設の老朽化、看護人材の不足など、複合的な課題を抱えています。

特に、救急医療体制については、2018年度から今治市医師会市民病院に週末の24時間、愛媛大学から医療チームの派遣を受けるなど、限られた資源の中で工夫を凝らしながら、県立今治病院を含む8病院の懸命な努力によって、住民の命を守る体制が維持されてきました。しかし、今年6月末には、そのうちの1病院が離脱せざるを得なくなり、救急医療を取り巻く環境は、かつてないほど厳しい状況にあります。

こうした状況下で、県立今治病院の整備費用が2025年度の県当初予算に計上されなかったことに、私自身、非常に強い危機感を覚えました。そこで5月8日に、今治市医師会の本真会長とともにあらためて中村知事を訪問し、今治圏域の医療体制が直面している深刻な課題や「県病院がなくな

ってしまうのではないか」という市民の切実な不安の声を率直にお伝えしました。そのうえで、県立今治病院の移転新築は、今治市民にとつての念願であることを訴えさせていただきました。

この切実な訴えに対し、知事は深い理解を示され、今治圏域の地域医療を守るためには県立今治病院の早急な整備が不可欠であるとの判断のもと、6月補正予算への計上に至ったものと受け止めております。

新病院の病床規模は、当初計画の240床から215床へとダウンサイジングする計画が打ち出されましたが、これは単なるコスト削減が理由ではなく、コロナ禍後の入院患者数の減少、今後10年の今治圏域の人口減少や医療需要の変化、地元の医療供給体制などを総合的に勘案し、適正規模を検討して再設定されたものです。具体的には、基礎となる182床に、民間医療機関の減少を補完する26床、さらに高度急性期医療の強化分6床を加え、必要な215床を

確保する計画であり、十分な医療機能を備えた規模と認識しております。

2024年3月には県と市の間で「愛媛県立今治病院の移転新築に係る覚書」を交わし、県と市が連携・協力して移転新築を実現することを確認しました。市では2025年2月に「県立今治病院移転新築に係る庁内連携会議」を設置し、県の進捗に応じて市として協力可能な内容の協議を進めております。新病院へアクセスするための公共交通の整備、調剤薬局・スーパードッグなど関連施設の誘致といった側面的な支援に加え、移転後の現病院跡についても40年の歴史を尊重し、地元の皆様のご意見を丁寧に向いながら、有効活用を図ってまいります。

また、地域共通の課題の1つが「看護師の確保」です。看護師不足により、救急患者や入院患者の受入れが困難となり、病院経営にも影響を及ぼします。対策として、本市ではこれまでの今治看護専門学校への支援に加え、2025年



海の恵み にがり を残した 創業当時から変わらない定番の塩



伯方の塩HP



伯方の塩は、輸入天日塩田塩を日本の海水で溶かして原料としています。伯方の塩は伯方塩業株式会社の登録商標です。

度から新たに、市内の医療機関に就職した新卒の看護師に対して、養成校の授業料の1/3相当額を

5年に分けて奨励金として支給するほか、今治看護専門学校の卒業生には、今治市医師会がさらに1/3を上乗せする制度を開始しました。加えて、市内医療機関への就職を機に、本市に転入する看護師には、引越越し費用の一部助成も行っています。こうした施策を

充実させることで、看護人材の確保を後押ししてまいります。

県立今治病院の移転新築は、地域医療の持続可能性を担保する大事業です。今後も引き続き、県や今治市医師会と緊密に連携し、新病院がその機能を十分に発揮できる環境づくりに努め、1日も早い新病院の完成に向けて、最大限の協力をしてまいります。

愛媛大学工学部が「海事産業特別コース」を創設。市にサテライトを設置し、産官学が連携して人材育成を推進

—— 今年5月に開催された「バリシップ2025」、市が初めて主催したイベント「Flow」の成果は。また、愛媛大学が来年度、工学部に「海事産業特別コース」を創設し、今治市にサテライトを新設することになりました。この大学の取組みの概要と市としての誘致活動や今後のサポート、地域経済や人材育成等にもたらすと期待される効果は。

徳永 今年5月22日から3日間

にわたり開催された「バリシップ2025」では、初の試みとして、「海事産業×IT」をテーマに最新のイノベーションを結集したイベント「Flow（フロー）」を開催いたしました。最新テクノロジのプレゼンテーションやロボット、AI製品の展示を通じて、海とテクノロジを融合させた新たな挑戦を発信したところ、国内の関係者からも大きな関心を寄せていただき、今治が世界の海事

産業における課題解決や技術革新を進める拠点となる可能性を示す場となりました。

今治に若者や企業が集まり、新たな「流れ（Flow）」を生み出す技術革新の拠点をつくることは、本市にとって大きな挑戦です。今後もこの取組みを継続し、「しごと・ひと・まち」が躍動する国際海事都市「IMABARI」の実現に向けて、着実に発展させてまいりたいと考えています。

また、その「Flow」の場において、非常に重要な発表がありました。愛媛大学の仁科弘重学長から、2026年度に工学部内に「海事産業特別コース」を創設し、その拠点として今治市にサテライトを設置することが公式に発表されたのです。これは長年の念願であり、「えひめ海事産業協働コンソーシアム」をはじめとする業界の皆様の力強い後押しによって、実現の運びとなったものです。

愛媛大学では、すでに今治市内にサテライトを開設し、学生募集も来年4月の入学に向けて開始さ

一般社団法人 愛媛県建設業協会 今治支部 今治建設業協同組合

支部長 日浅 則仁
理事長

他 会員 組合員一同

〒794-0085 今治市いこいの丘4番地2

☎ (0898) 22-1477 FAX (0898) 24-1398



れております。愛媛大学と本市は、2023年10月に『Town & Gown構想』に関する覚書を締結し、大学と地域が一体となって持続可能な未来を描くための包括的・継続的な連携を推進することを確認しており、サテライトの整備支援、学生の受入れ環境の充実、地元企業との連携強化など、教育・

研究・人材育成の三位一体の支援体制を構築してまいります。

『海事産業特別コース』では、造船会社や船舶機器メーカーなど、地元の海事関連企業と連携し、実践的な教育と研究を通じて、「海事都市・今治」の未来を担う技術者を育成していきます。特に、サテライトでは、3年次以降の専門教育が行われる予定であり、学生が地域に根ざして学びを深めることが可能です。

こうした産官学が連携した取組みを通じて、地域産業の活性化が図られるだけでなく、今治で学んだ若者が地元企業に就職する流れが生まれることも期待できます。地域内の雇用創出と定住促進につながり、企業の技術継承や新規事業の創出にも大きな効果をもたらすでしょう。さらに、大学の研究成果と企業の技術力が融合することで、海事産業の技術革新が加速し、国

5月に開催された「バリシップ2025」には24の国と地域から約380社が出展

f i t a N e w

人は何かと比較することで、「これがいい」と判断できます。

他人と自分を比較して、満足できない自分が居ても、

昨日の自分と比較して、満足できる自分も居ます。

どんな比較対象にFITさせ、どんなNEWを見いだすか、

また、どんな既存の価値観にFITさせ、どんなNEWを創造するか、

FIT & NEW、それは価値観の形成作業。

的確がもたらす共感、新鮮がもたらす感動、

それがプリナートのワーキングテーマです。



岡田印刷株式会社

〒790-0012 愛媛県松山市湊町7-1-8

TEL(089)941-9111(代表) FAX(089)932-1199

<http://www.prinart.co.jp>

事業内容:一般:商業美術印刷、出版:企画・デザイン、ホームページ作成、イベント関連企画、運営、和洋紙卸販売、OA機器販売および保守、業務用家庭用電機製品販売、世界地図販売、各種セミナーの開催

中心市街地創生デザイン会議から
答申書を受け取る徳永市長

題解決に向けた大きな一歩であり、若者が地域で学び、働き、暮らす流れをつくることに直結します。そして、その先には、「瀬戸内の世

市民の声を反映した「中心市街地ランドデザイン」を策定し、次の世代に誇れるまちづくりに挑戦

—— 市は今年6月、「中心市街地ランドデザイン」を策定されました。まちづくり計画における今回のランドデザインの位置づけ、策定の目的、ランドデザインの概要、ポイントをお願います。

際競争力の強化につながります。加えて、学生と地域住民、企業との交流が活発化することで、地域社会全体の活力向上にも結びつくものと考えております。

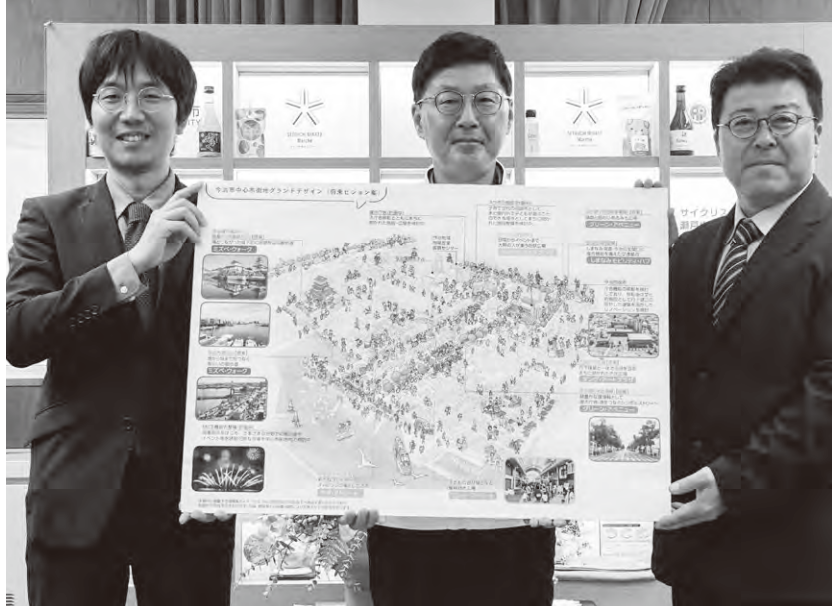
今治市は、日本最大の海事都市として、造船業をはじめ多くの関連企業が集積していますが、次世代の技術者育成は喫緊の課題です。愛媛大学との協働は、その課

徳永

本年6月、本市は「中心市街地ランドデザイン」を策定いたしました。人口減少や少子高齢化といった地域課題に向き合う中で、中心市街地の将来像とまちづくりの基本方針を示すものであり、将来の都市構造や公共施設の配置、公共空間のあり方を、市民と共に描いた「まちづくりの指針」と位置付けています。

これまでの経緯として、2022年度に「中心市街地まちづくり構想」を策定し、中心市街地の再生に向けた議論をスタートさせました。ランドデザインはその構想を踏まえ、「どこをどう変え、どう活かすのか」を具体的に示した実行へ向けた羅針盤です。駅と港をつなぐ都市軸を中心に、約1km²の区域を対象として、都市空間の再編や施設の再配置、交通やモビリティ、そして、公共空間の使い方に至るまで整備の方向性を明らかにしました。

2023年度から市民会議やデザイン会議、各種部会、パブリックコメントなどを通じて、学生やまちづくり団体、都市計画の専門





つくる。まだ触れたことのない感動
タオル美術館グループ

タオル美術館

愛媛県今治市朝倉上甲2930
TEL:0898-56-1515



家など、多様な主体から意見を伺い、その声を反映させることで、机上の空論ではない、実現可能性と「市民が真ん中」の理念を両立したプランに仕上がったと考えています。

ランドデザインの目的は、大きく二つです。一つは、都市の魅力と活力を維持し、将来の定住・交流人口の拡大につなげること。

もう一つは、今後のまちづくり施策や公共施設整備、交通・空間再編などを共通の指針のもとで連動・連携させ、効果を最大化することです。

その象徴となるのが、今回掲げたまちづくりのコンセプト「つながるみなと・まち・いまばり（Walkable Port City IMABARI）」です。今治の中心市街地は、海や

港をはじめとする豊かな地域資源や文化に恵まれています。その価値を住民・企業・行政が協力して磨き上げ、互いに結びつけることで、一体となった大きな魅力として発信していくことが重要です。海とまち、人と活動、そして、点在する資源をつなぎ、海・港から始まった今治で、新しいひとつながりの魅力を生み出していく—そうした思いを込めたコンセプトとなっています。

さらに「コンパクト・プラス・ネットワーク」という都市づくりの考え方も重視しています。都市の拠点となるエリアに住まいやサービス機能を集約し、公共交通などで周辺地域と有機的に結ぶことで、市全体の効率性や活力を高めるといいうものです。

加えて、公共空間の活用という観点からも、大きな方向転換を打ち出しました。道路や広場を単なる「通路」や「スペース」としてではなく、人が集まり、交流が生まれ、活動が育つ「居場所」として再編することにより、にぎわいを創出するとともに、市民の誇りやまちへの愛着を醸成していきたいと考えています。

また、今治ならではの地域資源として、丹下健三先生が設計した市庁舎や公会堂といった建築群、近世の町割りや戦災復興都市計画による歴史的な街路構造などを活かした空間づくりを進め、「今治らしさ」を磨き上げていきたいと考えています。

もちろん、まちづくりは行政だけで完結するものではありません

「丹下健三—世界のTANGHE—特別展」で展示された今治市庁舎、公会堂、市民会館の模型



太陽石油株式会社 四国事業所

ISO 9001. ISO 14001. ISO 45001. 認証取得

〒799-2393

愛媛県今治市菊間町種4070-2

TEL:0898-54-2500 Fax:0898-54-4156

<https://www.taiyooil.net/>

ん。市民や事業者、関係団体など、多様な主体が関わり合い、知恵を出し合い、「協働」してこそ実現できるものです。今回のグラウンドデザインはあくまで出発点にすぎません。目指すのは「次の世代に

誇れる今治のまち」を、市民の皆様と共に築くことです。これからも市民の皆様との対話を大切にしながら、「100年に一度のまちづくり」に挑戦してまいります。

「世界のTANGEE」の理念が息づく「瀬戸内の世界都市」を目指して、今治の未来像を市民と共有

—— 今年8月から9月にかけて、丹下健三顕彰事業「世界のTANGEE」特別展を開催されました。丹下健三氏と今治市とのご縁、丹下氏が市内に建築した作品、今回の事業実現に至った経緯と期待される効果などをお願いします。

徳永 日本を代表する世界的建築家であり、今治市名誉市民でもある丹下健三先生は、幼少期の約10年間を今治で過ごされました。その後、東京大学で建築を学び、戦後復興から高度成長期にかけて広島平和記念公園、国立代々木競技場、1970年の大阪万博会場など、数々の作品を手がけられました。まさに、日本建築界を世界

水準へと押し上げた立役者であり、その業績は国際的にも高く評価されています。生前、丹下先生は今治を「ふるさと」と呼んでくださっており、亡くなられて20年が経った今も、郷土の誇りとして多くの市民に敬愛されています。

丹下先生と今治との絆の象徴が、1958年竣工の今治市庁舎と公会堂、そして、1965年竣工の市民会館です。これらは、幼馴染だった当時の田坂敬三郎市長の三顧の礼に応え、丹下先生が設計を手がけた作品です。港から一直線に延びる広小路を都市軸として位置づけ、その延長線上に市庁舎、公会堂、市民会館を配置した

デザインは、建築単体の完成度に加え、「都市そのものをデザインする」という理念を体現した壮大な構想であり、現代のまちづくりに示唆を与え続けています。

市内には、ほかにも丹下先生の作品が点在しており、市民にも身近な施設として長く親しまれてきました。近年、国内外で丹下作品の再評価が進む中、本市においても、先生の想いが詰まったレガシーをどのように未来へ継承するかが課題となっていました。

そうした折、昨年5月からパリで開催された「丹下健三と隈研吾展 東京大会の建築家たち」において、建築家の隈研吾氏から「今治でこの展覧会を開催すれば、地方を牽引する事業となる」と力強いお言葉を頂戴しました。加えて、今年が丹下先生の没後20年の節目にあたることから、本市では「丹下健三―世界のTANGEE―特別展」を企画し、今年8月から9月にかけて市民会館、河野美術館、玉川近代美術館の市内3会場同時に開催することができました。



imabari towel
Japan

今治タオル工業組合
www.imabarityowel.jp



特別展では、3つの会場それぞれ特色ある企画を展開しました。市民会館では「海と都市のデザイン展」と題し、新たに制作した中心市街地の巨大模型を展示、市内の丹下作品と都市デザインを俯瞰することで、市民の皆様が未来のまちづくりを語り合うきっかけとすることができました。河野美術館では、今治市がオリジナルで制

作した漫画を通じて、丹下先生の生涯をなぞる「ふるさとの偉人展」を開催。子どもたちにもわかりやすく、先生の理念や功績を伝えられたのではないかと思います。そして、玉川近代美術館では、パリの凱旋展として代々木競技場や丹下先生のご自宅（現存せず）の模型、当時の貴重な写真資料を展示し、世界的な建築家の歩みを

紹介しました。これまで展示されることが少なかった昭和年代に制作された模型や、明治神宮内苑・外苑の巨大模型など、ここでしか観られない貴重な内容に、ご観覧いただいた皆様にはご満足いただけたのではないかと自負しています。

さらに、9月13日には「丹下健三顕彰シンポジウム2025」を今治市公会堂で開催し、隈研吾氏や丹下先生のご子息で建築家の丹下憲孝氏をお迎えしました。丹下先生が思い描いた都市構想と今後の今治のま

ちづくりについて議論を深めることができ、大変有意義な機会となりました。

こうした一連の顕彰事業の目的は、単に丹下先生の功績を讃えるだけにとどまらず、市民の皆様にまちづくりへの関心を高めていただき、今治のまちの未来像を共有することにあります。中心市街地グランドデザインで描かれた新たなまちづくりに向けて、この特別展はその幕開けを告げるファンファールであり、「顕彰」から「創生」へのSTAGE CHANGEの象徴だと、私は考えています。

市民一人ひとりが郷土に誇りをもち、子どもたちがまちづくりへの関心を高めることで、丹下先生の理念を未来へとつなぐ機運を醸成できたことが、今回の特別展の最大の成果であり、これからの今治の財産になるものです。

今治市はこれからも、丹下先生の想いをまちづくりに息づかせながら、次世代に誇れる「瀬戸内の世界都市」を目指して、歩みを進めてまいります。

「丹下健三―世界のTANGEE―特別展」開展式
市街地模型を囲んで隈研吾氏や丹下憲孝氏らと談議

倉庫・工場建築専門

M'S SOUKO
- 誠実品質 -



コストパフォーマンスに優れた
倉庫・工場の施工お任せください

重松建設株式会社

〒794-0015

愛媛県今治市常盤町4丁目7-6

☎0898-22-2566

Ms souko

で検索！

